

「2023年度タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学法学部1年 渡井 友莉香

このプログラムの存在を知るまでタイにいる自分を想像したことはありませんでした。タイ語はもちろん見たことも聞いたこともなく、タイについて知っていたことといえば地理や世界史で習ったことくらいでした。でも、そのようなほぼ完全に未知の土地で自分がどのようなことを学び、何に心を揺さぶられるのか実際に経験してみたい。そうしたほんの好奇心から参加を決意しました。しかし、非常に新鮮で充実した2週間を経験した今、タイに留学する機会を手にすることができたことにとっても感謝しています。言葉では言い表すことができないほど感動と高揚感に満ちた旅になりました。

まず、タイと日本の生活様式の違いに驚きました。タイでは朝早くから市場がにぎわい、新鮮な果物や数々のタイ料理、服や小物などを物色することができます。夜になればライトアップされたテントからいい匂いが広がり、歩くだけで楽しいです。朝市や夜市だけでなく、ウィークエンド・マーケットや水上マーケットなどもいたるところに存在し、市場は日々の生活に欠かせない存在なのだと思います。また、バンコクではタクシーを安く利用することができるので、老若男女問わず行きたいところへ行きたいときに足を運べます。市民の生活の足として戸口輸送可能なタクシーが普及していることは、ハンディキャップのある方や高齢者にとっても暮らしやすい街づくりの一助となっているのではないのでしょうか。

車から降りて街を歩くと、いくつもの寺院や仏像を目にします。金色に輝く豪華絢爛な仏像はタイ人の仏教観を反映したものであると、チュラーロンコーン大学での講義とバンコク、アユタヤでの博物館見学の中で学びました。来世も人間に生まれ変わりたいのなら、徳を積まなければならない。王は最も多くの徳を積んできた存在であり、仏陀への敬意と王の威厳を示すため古くから金が多用されてきた。この他にも多くのことを教えていただき、タイだけでなく日本の仏教観についても興味を持つようになりました。また、タイの伝統楽器・伝統舞踊を練習されている大学のサークルにもお邪魔させていただき、学生さんに教えてもらいながら体験しました。教わった王様の曲というものを一緒に演奏したり、指の動きの複雑さに苦戦したりと楽しい思い出を作ることができました。でも、日本語を知らない学生さんとは、お互いになんとか英語で会話している状態で、伝えたいことをうまく言えないもどかしさをひしひしと感じていました。この歯がゆさをバネに、英語力を磨くという漠然とした目標ではなく、「自分の思いをちゃんと相手に届けられる力を身につける」という明確なゴールを目指して今後も精進していきたいと思います。

英語だけでなく、タイ語が飛び交う環境では、タイ語が分からないことの不便さもかなり感じていました。だからこそ、勉強したタイ語が一発で通じたときの喜びはひとしおでした。タイ語の授業で教わった文法と大量の単語をひたすら覚えたおかげで、お店の人に質問したり好みの料理を注文したり、電車内の放送を多少は理解したりできるようになって、言葉が通じることの幸せを知りました。まだ文字を読むことができないので、看板や値札はさっぱりですが、日本に帰った今でも少しずつタイ語の勉強を続けていきたいです。そして、仲良くなった学生さんにタイ語でメッセージを送れる日を迎えられることを願っています。

上述したように、バンコクでの毎日は新しい発見の連続で胸の高鳴りが止まることはありませんでした。海外で生活することがどういうことなのか、少しは理解できたような気がします。もともと行きたかった長期留学ですが、今では絶対に挑戦するぞとさえ思っています。自分が第2外国語として履修しているフランス語を懸命に勉強して、今回以上に現地の音を聞き、話すことができるようになりたいと思います。

思い出すだけでも非常に心が満たされるような幸せな毎日でしたが、高度に発展し活気づいている都市の中に露骨に存在する経済格差を私はどうしても忘れることができません。華やかな服を着てスマホを手にした人々が行き交う道の端で、地べたに座り暗い表情でお金を得る努力をしている人がいます。ショッピングモールが立ち並

ぶ中心地では特に目立ち、黙って隣を通り過ぎるのが本当に心苦しかったです。また、店の隅で娘や息子を寝かしつけながら夜遅くまで商売をしている人は多く、レストラン街では飲み物を売り歩いている一人の少女を行く度に目にしました。日常と化しているこうした光景を目の当たりにして、発展途上国の教育支援をしたいという私のかねてからの思いは一層強くなりました。どういう立場でどのように支援を実現していくのかまだ悩んでいる最中ではありますが、どのような支援を求められているのかを第一に考え、進路を選択していきたいと思えます。

タイで過ごした2週間は非常に実りの多い時間だったと思っています。新しい世界で自分が感じたこと、考えたことをすべて言葉にすることはできませんが、日本にはないタイ独自の良さと魅力、そして急速な発展の影の部分から自らの心身で体感し、改めて日本の優れた点を実感するとともに、裕福さの陰に隠されている課題を意識するきっかけになりました。今回のプログラムを通して学んだことをこれで終わりにせず、さらなる学びの出発点にしていきたいです。そして、この旅で得た多くの友人とこれからもよい関係を築いていけたらと思います。